

様

年 月 日

R-CHOP療法

この治療では次の5種の薬を使用します。

- リツキシマブ（リツキサン注）：細胞のDNAや蛋白合成を妨げ効果を現します。
- シクロフォスファミド（エンドキサン注）：細胞のDNAやRNAの合成を妨げ効果を現します。
- ドキソルピシン（ドキソルピシン注）：細胞のDNAに作用して効果を現します。
- ビンクリスチン（オンコピン注）：細胞が分裂し増えて行くのを妨げ効果を現します。
- プレドニゾン（プレドニン錠）：副腎皮質ホルモン剤。リンパ系の病気の細胞に対し効果を現します。

<投与スケジュール> . . . 3週間 1コース

今回

コース目

<薬品名> <投与方法・時間>	<薬の作用>	1コース目				2コース目
		1日目	2日目	3 ~ 6日目	22日目	
ホルタリンSR 37.5mgカプセル<朝夕内服>	発熱予防		休薬			
KN3号500mlマイロン注20ml<点滴静注180分>	腎障害、出血性膀胱炎予防			休薬		
KN3号500mlマイロン注20ml<点滴静注180分>				休薬		
KN3号500mlマイロン注20ml<点滴静注180分>				休薬		
ホララミン注 <静注>	アレルギー予防		休薬			
サクソラン注 生食100ml<点滴静注30分>	アレルギー予防		休薬			
リツキサン注・5%ブドウ糖500ml <点滴静注>	化学療法剤		休薬			
プレドニン錠 <内服毎食後>	化学療法剤			休薬	
ゲラニセトロン注 <静注>	吐き気止め			休薬		
オンコピン・生食50ml <静注>	化学療法剤			休薬		
ドキソルピシン注・生食50ml <静注>	化学療法剤			休薬		
エンドキサン・5%ブドウ糖500ml <点滴静注2時間>	化学療法剤			休薬		

<薬剤投与日の注意>

- ★ 点滴部位が痛くなったり、腫れたりした場合や点滴が落ちなくなった場合は、薬液が血管外へ漏れていることがありますので、すぐに申し出てください。
- ★ 薬剤の投与は、血液検査やその他必要な検査を行いながら進めていきます。副作用の発現・合併症の有無によって治療の途中でも、薬剤の減量・変更や中止されることがあります。

<備考>

<副作用>

副作用と症状	発現時期、頻度	対策	メモ
白血球減少 発熱 風邪様症状	1～2週間	うがいや手洗い・休養を心がけて下さい。白血球を増やす薬や抗生物質を使うこともあります。	
血小板減少 出血	—	けがや打撲、歯ぐきからの出血、鼻血などに気をつけて下さい。止血剤や輸血をすることもあります。	
貧血 倦怠感、息切れ めまいなど	—	採血結果によっては、造血剤の使用や輸血を行います。	
心筋障害 疲労感、動悸、息切れ 喘鳴、むくみなど	ADMの総投与量に関係 重度8%、軽度40%	定期的に心電図などの検査を受け早期発見に努めてください。	
出血性膀胱炎 尿が濁る、尿量が減る 尿が赤くなる、 下腹が痛いなど	2～3日後	水分の摂取に心がけて尿量を増やしてください。必要時には輸液などを行います。	
吐き気・嘔吐	投与中～ 重度20人に1人	我慢せずに吐き気止めを使用してください。	
便秘	—	水分摂取や食物繊維の多い食べ物をとるように心がけて下さい。下剤を服用することもあります。	
末梢神経障害 手足のしびれ ぴりぴり感	—	手指の運動、温浴・冷水浴を行って下さい。ビタミン剤や漢方薬などの薬を服用することもあります。	
口内炎	—	うがい薬や塗り薬を使います。	
脱毛	2週間～ 重度40%、軽度90% 以上	治療が終了すれば徐々に回復します。気になる方は帽子やスカーフ・かつらなどをお使い下さい。	
血管痛・静脈炎	投与中～	痛みや腫れがあれば、すぐに申し出て下さい。	
下痢・腹痛	—	水分摂取を心がけて下さい。下痢止めや整腸剤を使ったり、点滴をすることもあります。	
その他：過敏症、肝障害、腎障害、肺障害、倦怠感など			

★ アドリアシンの系統の薬は、治療を継続し、投与量が一定以上を超えると心臓への副作用が強まることが報告されています。一定以下の投与量でも注意が必要です。定期的な心臓の検査を受けるとともに、上記のような症状があればすぐに申し出て下さい。

★ 腎障害や出血性膀胱炎の予防のため、水分摂取に心がけてください。

★ オンコビン系統の薬は腸の動きを悪くするため便秘を起こすことがあります。予防のため、水分摂取に心がけてください。

★ 副腎皮質ホルモン剤（プレドニン）は、吐き気やアレルギーなどの副作用を防ぐ働きもありますが、まれに易感染（ばい菌への抵抗力が弱くなる）、潰瘍、血糖上昇、高血圧、不眠などの副作用が現れる場合もあります。万一副作用が現れても対症療法で対応が可能ですので、調子の悪いことがあれば申し出て下さい。

ここにあげた副作用は、代表的なものです。必ずしもこれらの症状が現れるとは限りません。もし、副作用が現れても、早期に発見、対処すれば、治療の継続が可能です。過剰に心配せず、気になること、調子の悪いことがあれば、医師、薬剤師、看護師に申し出て下さい。